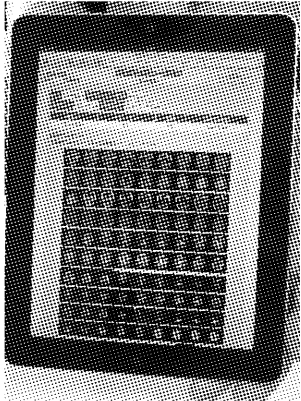


訪問診療に iPad

久保田情報技研がソフト

和歌山の医療連携向け

久保田情報技研（東京都渋谷区、久保田俊雄社長、03・5456・8066）は、訪問診療に活用できる米アップル「iPad（アイパッド）」向けのソフトウェアを開発し、和歌山県で運用する地域医療連携システム「ゆめ病院」で導入した。医師らは患者宅から同システムに接続し、患者情報の閲覧や入力が可能となる。画像やグラフを患者や家族への説明に使用できるほか、データ共有機能により医療機関同士の連携が容易になる。まず約20台を導入。秋には同社のサービスとして提供を始める考えだ。



以前から、往診にパソコンを活用したいという要望はあったが、個人情報から「適切なデバイスが要望はあったが、個人情報」(久保田社長)た

め、実現していなかった。iPadで

iPadで患者のCT画像などを閲覧できる

医師や看護師、薬剤師は、訪問先の患者宅で患者の医療情報や地域中核病院で撮影した患者のこ

報保護や開発費用の観点から「適切なデバイスが」(久保田社長)た

「ゆめ病院」は伊都医師会(和歌山県橋本市)の地域医療連携システム。ネット上で患者の電子カルテを共有し、会員医師の医療機関を受診し

コンピュータ断層撮影装置(CT)画像などを閲覧できるほか、共有情報、処方箋などを入力できる。共有情報を入力すると、関係医療機関に電子メールで通知したり、医師が往診時に処方した薬の情報を調剤薬局がインターネットで確認して患者宅に届けるなど、患者の家族の負担も軽減するといふ。

「ゆめ病院」は伊都医師会(和歌山県橋本市)の地域医療連携システム。ネット上で患者の電子カルテを共有し、会員医師の医療機関を受診し

た患者の医療情報を、患者の同意の上でほかの会員医療機関で閲覧できる。橋本市のほか、同県かつらぎ町、九度山町、高野町、奈良県五條市で運用されている。